

さけます情報

# 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

たかはし まさや

高橋 昌也 (北海道区水産研究所 さけます生産技術部)

## 2016年の北太平洋

### 漁獲数

2017年に公表されたNPAFC統計データによると、2016年1-12月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は4億3,686万尾で、前年5億931万尾の86%でした(図1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが2億6,448万尾で最も多く、全体の61%(前年比84%)を占めています。次いでサケが8,838万尾(構成比20%,前年比81%)、ベニザケが7,519万尾(構成比17%,前年比101%)と続き、これら3魚種で全体の約98%を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ730万尾(前年比81%)、145万尾(前年比71%)となりました(図1A)。地域別では、ロシアが2億7,698万尾と最も多く、以下、アラ

スカ1億1,296万尾、日本3,843万尾、カナダ627万尾、アラスカ以外の米国(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)215万尾、韓国9万尾と続いています(図1B)。

### 人工ふ化放流数

2015年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は51億2,813万尾で、前年51億9,591万尾の99%でした(図1C)。

魚種別ではサケが33億3,968万尾で6割以上を占め、これに次ぐカラフトマス12億2,689万尾と合わせると全体の9割近くを占めます(図1C)。地域別では日本が18億9,792万尾、アラスカ16億6,239万尾、ロシア9億6,728万尾、カナダ2億8,172万尾、アラスカ以外の米国2億9,687万尾、韓国2,195万尾となっています(図1D)。

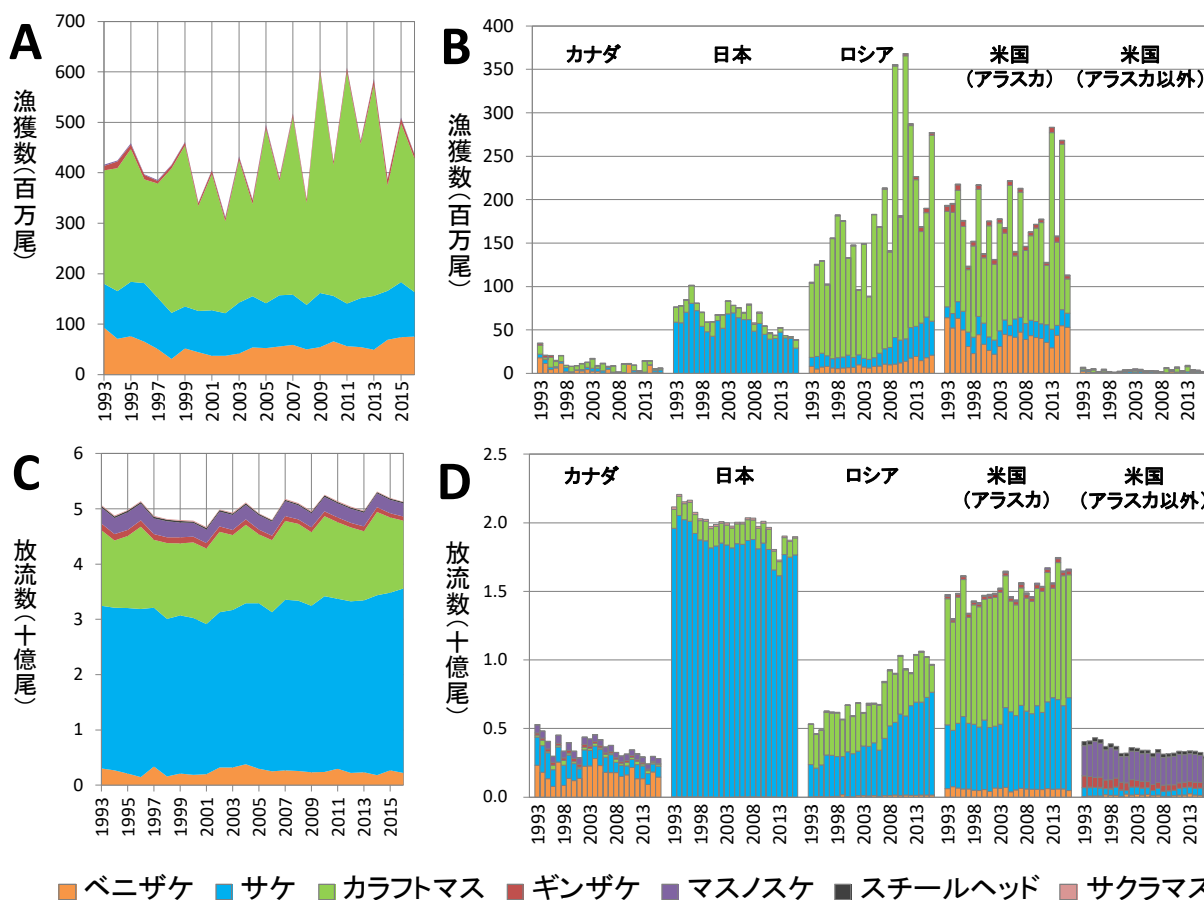


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)。

A及びBは「NPAFC Pacific salmonid catch statistics (updated 31 July 2017)」, C及びDは「NPAFC Pacific salmonid hatchery release statistics (updated 31 July 2017)」より作成(参照 2017-10-25)。アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略。

## 2017 年漁期の日本

### サケ

2017 年漁期（2017 年 8 月～2018 年 2 月）の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 2,244 万尾、前年同期比 71%となっています。このうち北海道では 1,737 万尾（前年同期比 67%）、本州太平洋側では 440 万尾（前年同期比 88%）と、ともに近年では最も低い水準であった前年度を更に下回りました。一方で本州日本海側では 67 万尾（前年同期比 104%）と、前年をやや上回っています（図 2）。採卵数は、12 月 31 日現在で 17 億 6,742 万粒と、前年同期の 96%となっています。このうち北海道は 10 億 5,949 万粒であり、採卵計画数の 87%にとどまっています。本州では、12 月 31 日現在で 7 億 793 万粒（前年同期比 109%）が確保されています。全国の放流数は計画（17 億 6,443 万尾）を下回る見込みです。

### カラフトマス

主産地の北海道における 2017 年漁期の来遊数は 124 万尾（前年比 14%）と、1983 年漁期以降で最も少ない結果となりました。カラフトマスは 2 年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。偶数年級の来遊数は昨年度急激に増加しましたが、奇数年級は 2007 年漁期以降今年漁期に至るまで、急激な減少傾向を示しています（図 3）。採卵数は 1 億 3,289 万粒で、計画数の 77%となりました。放流数も計画（1 億 3,840 万尾）を下回る 1 億 600 万尾ほどになると見込まれます。

### サクラマス

2017 年漁期の北海道における河川捕獲数は 3,414 尾（前年度比 49%）と、1975 年以降で最も少ない結果となりました。地域別には日本海区では前年比 24%と大きく落ち込み、オホーツク海区も前年比 76%に留まりました。採卵数は 303 万粒で、計画数の 60%となりました。なお、2017 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

### ベニザケ

2017 年漁期の北海道 3 河川（安平川・静内川・釧路川）における河川捕獲数は 381 尾で前年比 142%となりました。

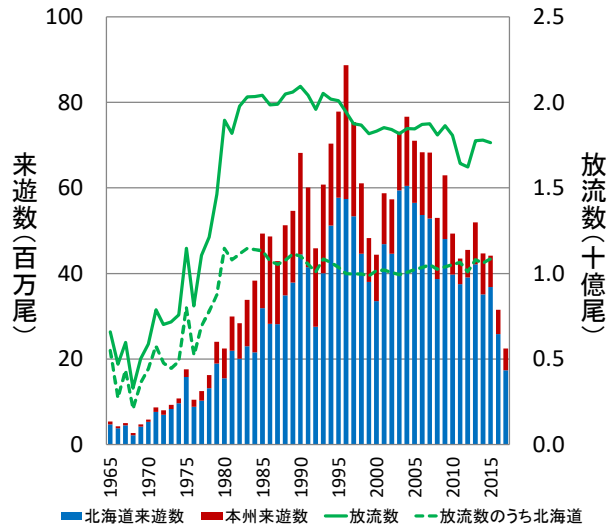


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数. 2017 年漁期来遊数は 12 月 30 日現在.

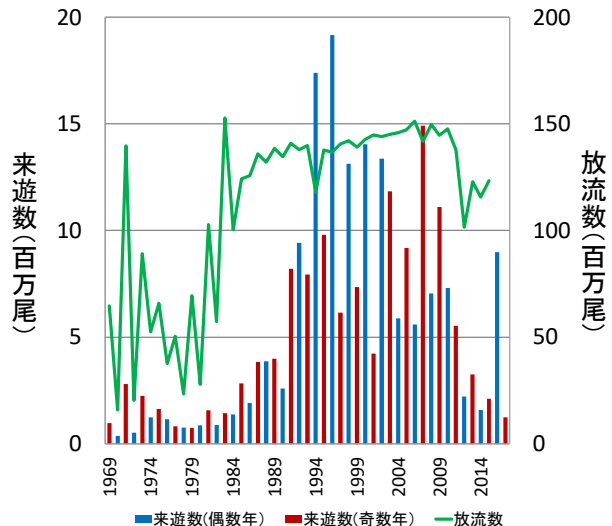


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数.

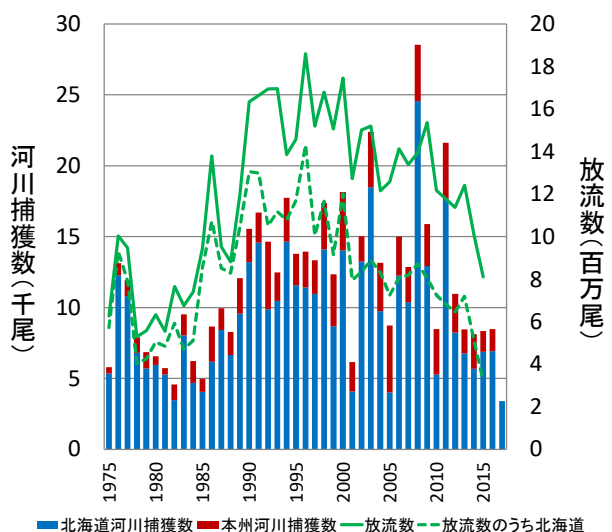


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数. 2017 年漁期の本州河川捕獲数は確認中.